

塩澤町史

通史編

上卷



目次

口絵

発刊のことば

編集を終えて

凡例

自然

はじめに

第一章 地形と地質

第一節 変化に富む大地の姿

一 世界と日本のなかの塩沢町

二 織姫明神を祭る巻機山に連なる山やま

三 ドライブウェイの走る丘陵の地形

四 水田の広がる低地の地形

五 上田富士、飯士火山と榊形山の地形

六 断層によって形成された六日町盆地

第二節 地質

塩沢町長 上田 欽一
 塩沢町史編集委員長 細 矢 菊 治

一 大地のつくり

二 大地の生い立ち

三 大地の恵み

第三節 地形・地質と生活

一 地形と生活の場

二 農業・林業と地形

三 観光・レジャーと地形

四 地形と災害

第二章 気象と気候

第一節 塩沢の冬と雪

一 北西季節風と雪

二 雪と災害

3	4	4	4	5	9	12	14	18	24	24	40	44	48	48	51	52	56	61	61	61	65
---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

第二節	雪国の四季とくらし・風景	71
一	塩沢の気候とくらし	71
二	雪国の風景	76
第二章	植 物	81
第一節	塩沢町の植物	81
一	四季の植物	81
二	ふるさとの森 ブナ林	84
三	帰化植物	86
四	雪国の植物	88
第二節	人間生活と植物	89
一	くらしの中の植物	89
二	薬草と毒草	93
三	巨木と名木	97
四	街路樹及び学校の樹木	98
第三節	塩沢町のキノコ	100
一	栽培できるキノコ、できないキノコ	100
二	キノコの中毒	100
三	キノコの発生時期	102
四	塩沢町周辺のキノコと方言名	105
五	塩沢町周辺の主なキノコ目録	106
第四章	動 物	108
第一節	昆 虫	108
一	塩沢町に住む昆虫の種類	108
二	鈴木牧之の雪虫	108
三	雪虫の仲間	112
四	人里と山の昆虫	112
五	チョウ類の社会	114
六	トンボ類の社会	120
七	植生と地表性昆虫	127
八	県立自然公園の貴重種	131
九	昆虫社会の評価	132
一〇	チョウ類相と自然環境	136
第二節	塩沢町の魚類	140
一	魚の生息環境	140
二	魚 類 相	141
三	川と海をめぐる魚の暮らし	142
四	注目される魚類	147
五	移り変わる魚類相	149
六	変貌する魚類の生息環境	153
七	漁具と漁法	155
八	伝統的な魚料理	159
第三節	塩沢町の両生類と爬虫類	163
一	両 生 類	163
二	爬 虫 類	166
第四節	塩沢町の野鳥	170
一	塩沢町に生息する野鳥	170

二 人と鳥とのふれあい	175
三 気がついたらいなくなった鳥	177
四 塩沢町で注目したい鳥	188
五 知られざる野鳥の生活	195
六 塩沢町の鳥類目録	199
七 野鳥愛護活動の歴史	202
第五節 塩沢町の哺乳類	204
一 哺乳類の生息環境	204
二 雪国塩沢の哺乳類	205
三 変わりゆく哺乳類相	207
四 狩 猟	211
五 人と哺乳類の共存の道	216
自然編協力者一覧	220
自然編参考・引用文献	220
民俗	225
序章 『北越雪譜』と塩沢の民俗	225
一 雪の道具	225
二 ムラの変遷	227
第一章 雪中の里	228
第一節 雪―雪と生活	228
一 雪国塩沢	228
二 雪に備えて	229

三 雪とのたたかい	232
四 雪 言 葉	234
五 雪の貯蔵施設・雪穴	238
第二節 村―社会と生活	243
一 隣近所とムラのしくみ	243
二 村の管理と共同負担	248
三 入会地と山の口	252
四 雪降りどきのムラ	256
第三節 町―町並みと商い	258
一 宿場から発展した町並み	258
二 塩沢の町並みの変遷	261
第四節 住―民家と居住習俗	274
一 屋敷の景観	274
二 民家の古風	276
三 家内の火	283
四 建築の儀礼と工程	286
五 塩沢の民家	294
第二章 家のなりわい	324
第一節 米―生産習俗と道具	324
一 稲作と道具	324
二 畑作と養蚕	341
三 山の仕事	348
四 熊 捕 り	354

第二節 働—仕事と労働

一 鍛冶屋の仕事

二 萱葺屋根

三 木羽葺屋根の技術と伝承

四 藁 仕事

五 食用鯉の養殖

第三節 織—機織り

一 『北越雪譜』に越後縮を学ぶ

二 縮布の素材、苧麻（からむし）

三 織 り

第三章 里の人々

第一節 人—人の生涯

一 初子の誕生と歳祝い

二 嫁 どり

三 青年会の入会と組織

四 死に—ごと

第二節 女—女の生活と着るもの

一 四季の生活と着るもの

二 衣料の仕立てと手入れ

三 ハレの着るもの

四 雪の日の被り物・履物

第三節 子—子どもの生活

一 子どもの社会

358

358

364

366

369

374

376

376

380

388

398

398

398

401

405

406

413

413

427

430

433

441

441

二 子どもの四季

三 子どもの着るもの

第四章 暮らしの古風

第一節 暦—四季の行事

一 一年中行事

二 —冬— 歳末、そして正月を迎える

三 —春— 消雪、そして新緑

四 —夏— 田植え、そしてお盆

五 —秋— 稲刈り、そして冬支度

第二節 祈—生活のまつり

一 講中と相互扶助

二 家の祭りとムラ祭り

三 十二山の神

四 お神樂が走る御旅所を巡る神輿

第三節 楽—芸能

一 芸 能

二 地 芝 居

第四節 食—食物と保存

一 食べる—ケシネ櫃と普段食

二 保存食—乾す・漬ける

三 ゴツタクと献立

民俗編協力者一覧

民俗編話者一覧

450

465

471

471

471

473

481

484

488

490

490

497

501

505

513

513

521

526

526

528

531

536

536

民俗編参考・引用文献……………

539

先史・古代

第一章 オオツノシカを追いかけた旧石器時代の人々

545

第一節 火山灰に覆われた人類の歴史……………

545

第二節 人類の誕生と拡散……………

546

一 ヒトをとりまく自然環境の変化……………

546

二 ヒトの進化と日本人の起源……………

548

第三節 日本列島に展開した狩猟民の文化……………

550

一 最古のハンターへ旧石器時代前期・中期……………

550

二 旧石器時代の道具箱へ旧石器時代後期……………

551

第四節 縄文時代への掛け橋……………

557

第二章 ブナの森で暮らした縄文人

560

第一節 一万年続いた縄文文化……………

560

第二節 塩沢町の縄文集落の種類と変遷……………

566

一 前期の集落……………

566

二 中期の集落……………

567

三 後期の集落……………

573

四 後期中頃以降……………

575

第三節 食料の獲得と貯蔵……………

576

一 植物採取……………

576

二 狩 猟……………

580

三 漁 猟……………

583

四 食料の貯蔵……………

585

第四節 精神文化……………

588

一 第二の道具……………

588

二 縄文人の埋葬……………

590

第三章 稲作を始めた弥生時代の人々

592

第一節 縄文人が受け取った稲作文化……………

592

一 豊かな縄文社会像……………

592

二 弥生時代への歩み……………

593

第二節 山里の生活……………

596

第三節 弥生社会の変貌……………

599

一 本格的な弥生文化……………

599

二 地域の統合……………

601

第四章 古墳を造った時代……………

604

第一節 古墳時代のはじまりと古墳文化の伝播……………

604

一 弥生時代から古墳時代へ……………

604

二 古墳の伝播……………

605

第二節 魚沼地方の古墳の分布とその時代……………

606

一 越後の古墳時代……………

606

二 魚沼地方の古墳の分布……………

610

三 古墳の造営時代……………

610

四 塩沢の古墳群……………

614

第三節 古墳群を支えた人たち……………

618

一 古墳時代の集落……………

618

二	塩沢の古墳の礎を築いた人たち	620
第四節	「魚沼」の地名	624
一	「魚沼」郡の初見	624
二	古代の魚沼郡の郡域	624
三	「魚沼」の地名の由来	627
第五節	魚沼地方の交通	629
一	魚沼地方の地理的位置	629
二	越後古代街道の復元	631
第六節	原始古代の交通	632
一	人の移動と交易	632
二	魚沼における縄文時代の動き	633
三	魚沼郡域における古代の道の検討	635
四	越後三路の開路時期の検討	637
第五章	律令体制と住民の生活	640
第一節	越後国のみならず	640
第二節	魚沼郡の範囲と郡家	646
第三節	郷里と農民	656
一	遺跡の分布と郷の所在	656
二	農民のくらし	658
三	手工業生産と生業	659
第四節	式内神社と古代の信仰	662
一	魚沼郡の神社信仰	662
二	魚沼の古代仏教	667

先史・古代編参考・引用文献	670	
中世		
第一章	上田荘の世界	677
第一節	魚沼郡殖田村と上田荘	677
第二節	上田荘内の郷	678
第二章	中世びとの信仰	681
第一節	神仏習合の世界	681
第二節	薬師・観音・阿弥陀の信仰	682
第三節	禅宗の広がり	684
第四節	中世の死者の供養	686
第五節	神々の信仰の広がり	688
第三章	内乱と守護の時代	693
第一節	新田義貞の挙兵	693
第二節	新田一族と南北朝の争乱	696
第三節	上杉氏の支配	700
第四節	上田長尾氏	704
第五節	寺院領の世界	708
第六節	旅をする人々	721
第四章	戦国乱世の風景	725
第一節	館・屋敷と要害	725
第二節	上田衆と呼ばれた人々	728
第三節	守護代長尾氏の権力確立	731

第四節	上杉謙信と上田長尾氏	735
第五節	御館の乱	745
第六節	定納員数目録の世界	756
第七節	国替	757
第五章	中世の交通と産業	760
第一節	関東街道と魚野川の舟運	760
第二節	市場と職人の活動	762
第三節	銭の流通	765
第四節	中世のムラと農民	767
	中世編協力機関一覧	772
	中世編参考・引用文献	772
	執筆者一覧	773
	町史編さん関係者名簿	775